

食堂『きゃべつ』



子供食堂では料理補佐
ボランティアの中村俊子さん



きゃべつ食堂調理長
長谷川幸子

ボランティアで関わってくださっている多く方に感謝！

平成 28 年 8 月より地域の公益活動として“おしゃべり café”「きゃべつ」を地域の独居の高齢者、介護等に係るご家族の息抜き、おしゃべりの場として開設いたしました。今年で 3 年目を迎えます。

昨年 6 月には子ども食堂を立ち上げました。

<今年 6 月 英語無料塾を始めました>

当初、子ども食堂は物珍しさもあり、子供たちより大人の人たちが見学に来てくれました。6 月～12 月までは順調に参加人数も伸びてきましたが、子ども達も飽きてきたのか平成 30 年 4 月頃から小学生の来店者が激減。この地域ではお腹が空いている子ども達、一人ぼっちで家にいる子どもは少ないのでしょうか？

5 月には毎回、小学生 2 人とか 3 人、時には 1 人しか来ないときもありました。後は大人や幼児達のお母さん達が来てくれています。魅力的な事、興味を示すことをしないと子どもたちは来ない。本来の「子供食堂」の趣旨は、家庭が貧困で、事情がある子ども達に、温かい食事をみんなで食べてもらいたい。そのような子どもたちはいないのかな？そこで、少し方向性を変えてみようかと考えて、無料で塾を開催しようかと。特に英語に特化し、「英語で遊ぼう」を、スローガンにして、「本場の英語を耳で聞き分けられるようになればいいかな」と思っていた矢先、ひょんなことから、アメリカ人の Mr. ジョーンズさんにめぐり逢い平成 30 年 6 月 6 日から月 2 回、第 1 水曜日と第 3 水曜日に「英語で遊ぼう」を始めました。小学生、中学生、幼稚園児がお母さんと一緒に来店し、第 1、第 3 水曜日の「英語で遊ぼう」の日は、食堂きゃべつが賑やかになりました。国で打ち出した貧困層や孤食の子ども達は居場所を作っても来てくれない。地域的なものなのか？相変わらず、共働き世帯の幼児を抱えた家族連れは 8～10 名は来店して、楽しんでいます。子供食堂も貧困層、貧困家庭でくくるのはいかなものかと 1 年運営して思いました。

責任者 吉田登美子 記



手術室ではありません！
お好み焼き



焼きそば

レシピを見てグラムをはかりきちんと作ってみました。



Lesson!



汗!



これから来る子供たちのために準備を…